

令和5年度当初予算（案）の骨子

『あらゆる分野で変革と人づくりを進め、 選ばれるまち長岡のミライへ踏み出す予算』

混迷する世界情勢の中、私たちを取り巻く環境は、急激な物価高騰や新型コロナウイルス禍の深刻な影響もあり、かつて経験したことがない激動の時代に直面しています。

このような大きな変化に対応するため、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、女性活躍の推進と多様性の確保、新しい価値の創出を共通の視点として、あらゆる分野で変革を促すとともに、どのような状況も乗り越えられる人材を育成し、選ばれるまち長岡の未来に向けた取組を進めてまいります。

『快適で安全安心に暮らせるまちづくり』では、子育てと医療・福祉をさらに充実させるほか、地域コミュニティ力の強化と愛着の持てる地域づくりを進めます。さらに、身近な生活環境の整備と自然災害への備えにも取組みます。

『「新しい米百俵」による人材育成』では、「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点に長岡の未来を担う人材を育成するとともに、多様な人材を活用します。

『「長岡版イノベーション」による成長戦略と地域経済の活性化』では、日本初の「イノベーション地区」創設に取り組むとともに、循環型社会の実現や地域と行政のDX化を進めます。また、地域産業の下支えと人材の確保にもしっかりと取り組んでまいります。

『長岡を楽しく元気にする活動の推進と魅力発信』では、誰でも気軽に参加できて元気になれる機会と環境を整えるとともに、歴史の継承と地域資源を活かしたまちづくりを進めます。さらに、長岡の魅力を発信し、交流・定住人口の増加を図ります。

『持続可能な行財政運営プランの着実な推進』については、行政サービスの質の向上や業務の効率化、公共施設の見直しなどに取組みます。

この基本姿勢に基づき、令和5年度当初予算（案）を、『あらゆる分野で変革と人づくりを進め、選ばれるまち長岡のミライへ踏み出す予算』としました。

予算の特徴

■ 予算規模

一般会計

1,299億8,700万円 (前年度比1.5%減)

※新型コロナウイルス感染症対策関係経費、新型コロナワクチン接種
事業費や借換債を除いた「実質予算」としては

1,224億1,954万円 (前年度比3.8%増)

総予算(特別会計・企業会計含む)

2,175億6,510万円 (前年度比0.1%減)

■ 経済対策で事業前倒し

国の補正予算に伴い、令和5年度の予定事業を補正予算で前倒して
実施することで、切れ目のない経済対策を実施

一般会計 普通建設事業費

〈4年度 経済対策補正予算〉

〈5年度当初予算〉

〈総額〉

87.8億円

152.2億円

240.0億円

・ごみ処理施設、道路など生活に密着したインフラの整備を前倒しで実施

■ 重点施策

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| I 快適で安全安心に暮らせるまちづくり | 324.7億円 |
| II 「新しい米百俵」による人材育成 | 60.3億円 |
| III 「長岡版イノベーション」による成長戦略と
地域経済の活性化 | 52.8億円 |
| IV 長岡を楽しく元気にする活動の推進と魅力発信 | 28.1億円 |
| V 持続可能な行財政運営プランの着実な推進 | |

I 快適で安全安心に暮らせるまちづくり

5歳児健康相談会を開催して発達特性のある子どもと保護者への支援を強化するとともに、産婦健康診査費用の助成や3歳児健診時の視力屈折検査を新たに導入するなど、妊産婦と子どもの健診体制を充実させることで、妊娠から出産、子育てまでを応援する取組を強化します。

医療・福祉の充実と健康づくりの推進として、障害者の緊急相談を24時間体制で受付ける地域生活支援拠点を整備するほか、認知症の人と家族を支援するプログラムを実施します。

未来を担う若者が地域に愛着を持ち続けられるよう、遠距離通学する高校生に対してバス定期代を支援し、支所地域に高校生が集える場を整備します。また、コミュニティ推進組織と支所が一体となって進める住民サービスや地域課題への対応を強化します。

地域に精通した地元業者が公共土木施設を包括的に維持管理する範囲の拡大や、路線バスの位置情報配信システム「ながおかバスi」の再構築などにより、身近な生活環境の整備を進めます。また、女性の視点から地域防災活動等に必要な対策を検討する有識者懇談会を設置し、災害対応力を強化します。

II 「新しい米百俵」による人材育成

人づくりと産業振興の拠点として7月に先行オープンする「米百俵プレイス ミライエ長岡」西館でオープニングイベント等を実施するほか、同館に移転する互尊文庫やN a D e C B A S Eにおいて、新たなにぎわいと価値を創出します。

「長岡ワークモデル」の普及と多様な人材の活用を図るため、ミライエ長岡のイノベーションサロンで起業相談を実施するほか、海外の高専や工科大の生徒のインターンシップ時の市内企業の受入れを支援するなど、外国人材が活躍できる環境を整備します。

未来をつくる人材の育成として、中学校のスポーツや芸術文化の部活動の地域移行に向けた環境整備を進めるほか、登校や外出が困難な子どもたちへの支援体制を充実させ、居場所づくりを進めます。

Ⅲ 「長岡版イノベーション」による成長戦略と地域経済の活性化

日本初の「イノベーション地区」創設を目指し、デジタル技術の活用や居心地の良いまちなかを実現するため、イノベーション創発の調査研究を進めるほか、産学官の協創拠点となる新生N a D e C B A S Eで企業人材を活用し、様々な連携プロジェクトを実施します。

「長岡市カーボンニュートラル チャレンジ戦略2050」により、循環型社会の実現に向けた取組を推進します。さらに、コミュニティセンターや体育館の照明のLED化など、公共施設の光熱費節減の取組を積極的に進めます。

地域と行政のDXの推進は、農作業の負担軽減や生産性の向上が図られる先端機器の導入を支援することで、女性や若者も就農しやすい長岡版スマートアグリを推進します。また、行政窓口のデジタル化を進めて手続きや窓口サービスの利便性を向上させます。

人員の確保に悩む市内企業と柔軟に働きたい市民のニーズをマッチングして、多様な働き方を提案する「長岡版ワークシェアリングシステム」の構築に向けた実証実験を行います。また、デジタル地域通貨「ながおかペイ」の決済時ポイント付与キャンペーンを通じて、地域経済の活性化に取り組めます。

Ⅳ 長岡を楽しく元気にする活動の推進と魅力発信

人々の活動が元に戻りつつある中で、若者から高齢者まで誰もが参加できて元気になる機会を創出するため、eスポーツなどの体験イベントや高齢者向けのスマホ教室を開催します。さらに、地域住民を「スマホアンバサダー」として養成し、交流しながらデジタル技術を学ぶことができる環境をつくります。

長岡の歴史を後世に継承するため、戦災資料館の移転整備に着手します。また、観光関係事業者とともにデータマーケティングによる新たな観光誘客や観光商品の開発に取り組むことで、地域ブランド「越後長岡」を活用した観光振興を強化します。

長岡の魅力発信により交流・定住人口の増加を図るため、お試し移住の取組を拡充するほか、市内4か所の道の駅の観光周遊拠点としての機能を強化するためのイベントを開催します。

V 持続可能な行財政運営プランの着実な推進

令和2年度に策定した行財政運営プランに基づき、社会経済情勢の変化に対応していくために、先端技術を取り入れながら行政サービスの質の向上と業務の効率化を図るとともに、公共施設の見直しなど行財政全般の再構築に取り組めます。

なお、光熱費や物価等の上昇に対しては、今後の変動や地方財政対策の動向を注視しつつ、プランの取組を着実に推進するとともに、行政運営に係る経費のさらなる節減に向けた新たな取組の検討に着手します。